

萱野三平記念館

(箕面市)



萱野三平と忠臣蔵

萱野三平は箕面市萱野地域で生まれ、赤穂浅野家に中小性として仕官しました。元禄14年(1701年)内匠頭の吉良上野介に対する刃傷事件の一報を赤穂に知らせる使者となつた三平は、途中、萱野の実家の前で母の葬儀に遭遇しますが、主君の用が大事と涙ながらに掌をあわせそのまま赤穂に向かいます。その後、大石内蔵助らの仇討ちに加わろうとしましたが、父が反対。主君への忠義、父への孝行という板挟みに悩み、主君の命日である元禄15年(1702年)1月14日に辞世の句を残し自刃、27年の生涯を終えました。



【萱野三平記念館】

- ◆開館時間／午前10時から午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日／月曜日(但し、月曜日が休日の場合は翌日)
年末年始(12月28日から翌年1月4日まで)
- ◆入館料／無料



旧邸 長屋門



萱野三平像



辞世の句(俳号:涓泉)
晴れゆくや 日ごろ心の 花曇り



三平や西国街道に関する資料が展示されています。



赤穂藩士として忠義を尽くし、
48人目の赤穂義士として
歴史に名を刻んだ萱野三平。
俳諧の世界にも通じ、俳号は涓泉。
その足跡を残した記念館(涓泉亭)は
大阪府指定史跡の旧邸長屋門などを含み、
歴史遺産として元禄期の面影を
今に残しています。